

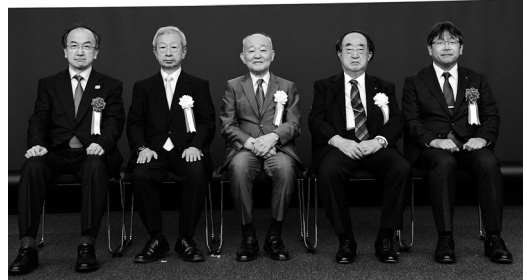


医療経営士ニュース | これからの医療現場を担う経営人材のための機関紙

MMS NEWS

2020 11 月号
Vol.117
毎月1回発行(通巻117号)
編集:日本医療企画

一般社団法人日本医療経営実践協会 〒104-0032 東京都中央区八丁堀三丁目20番5号 S-GATE八丁堀9F TEL.03-3553-2906 http://www.JMMPA.jp/



協会創立10周年記念「功労賞」表彰式終了後の記念撮影。
左から上田哲郎氏(墨東病院院長)、中村彰吾氏、吉原健二代表理事、林諄氏、山崎元靖氏(横浜市東部病院副院長)



特別講演(2日目)の
宮田裕章氏



創立10周年記念講演
の藤原正彦氏



大会運営委員長の
安藤高夫氏

10周年記念大会が盛況裡に閉幕 混迷する時代に活路を開こう!

第9回「全国医療経営士実践研究大会」東京大会
初のWEB開催!! 2日間で延べ400人が視聴

会場は協会関係者と講演者のみとし、参加者はWEBで視聴した



一般社団法人日本医療経営実践協会は10月3日(土)・4日(日)の2日間、六本木アカデミーヒルズで第9回「全国医療経営士実践研究大会」東京大会を開催した。テーマは「医療経営士の時代 新たな経営改革と地域社会貢献への挑戦——コロナ後に問われる「突破力」と「創造力」。新型コロナの感染防止対策として会場は関係者のみとし、2日間で延べ400人の参加者はWEBで視聴した。

菅総理大臣、田村厚労大臣らから祝電 創立10周年記念「功労賞」を授与

冒頭、大会運営委員長の安藤高夫・関東支部支部長が開会のあいさつに立った。「困難な時代を突破するために、コロナ後のビジョンをどのように描くのか、未来から投影して今どのような準備を進めていくべきなのかを考え、創造していく力を養っていくことが大事。医療経営士の突破力、創造力が地域社会に貢献し、地域で暮らす方々と医療関係で働く職員の幸福につながることを願っている」と述べた。

「国家の品格」の藤原正彦氏が記念講演 国防としての危機管理のあり方を説く

創立10周年記念講演では、「わが国はどこに向かうのか——ポストコロナ時代を考える」と題し、数学者でお茶の水女子大学名誉教授の藤原正彦氏が登壇。グローバルズを隔壁のないタンカーに例え、「どこかが故障して船内に水が入れば、あっという間に船中が浸水し、沈没してしま

続いて、当協会の吉原健二代表理事による主催者あいさつ(3面に全文掲載)、菅義偉内閣総理大臣、田村憲久厚生労働大臣、古川俊治自由民主党参議院議員からの祝電が披露されたあと、協会創立10周年記念「功労賞」の表彰式が行われた(表1)。

表1	協会創立10周年記念「功労賞」 受賞者・受賞団体
【「功労者」部門】	●中村彰吾氏(公益社団法人医療・病院管理研究会理事) ●林 諄氏(株式会社日本医療企画代表取締役)
【「功労団体」部門】	●社会福祉法人恩賜財団済生会支部 神奈川県済生会横浜市東部病院 ●武田薬品工業株式会社*1 ●東京都立墨東病院 ●白山石川医療企業団公立松任石川中央病院*2

*1 表彰式終了後にご退席
*2 表彰式をご欠席

医療経営士 3級 資格認定試験

受験エントリー
2021年
1月上旬
受付開始!

同僚や
知り合いの方に
ご紹介ください

医療経営士 資格認定試験 日程
試験日 2021年 3月7日
受験エントリー期間 2021年1月上旬~1月下旬
受験料支払締切日 2021年1月下旬

※受験エントリーにはマイページへの登録が必要になります。詳しくは協会ホームページをご確認ください

第32回「医療経営士3級」	
受験料 <small>※手数料別途</small>	9,100円(税込)
受験資格	年齢、学歴、国籍等の制約はありません
試験会場 (予定)	札幌・盛岡・仙台・東京・金沢・名古屋・大阪 広島・高松・福岡・鹿児島・那覇

団体受験 ◇受験者10名を超える場合、団体としてまとめてお申し込みできます。
◇一定の条件を満たした場合、認定会場制度をご利用できます。※審査があります

表2 全国医療経営士地域支部代表者講演の講演者一覧

- 1 北海道支部 ● 須山博亮氏 (医療法人社団積信会三村病院薬剤部薬局長)
- 2 東北支部 ● 金田圭悟氏 (医療法人松田会介護老人保健施設エバーグリーン・イズミ事務長)
- 3 関東支部 ● 園村恭子氏 (医療法人SHIODA塩田病院看護管理室看護部長)
- 4 北陸支部 ● 加藤伸一氏 (医療法人社団浅ノ川浅ノ川総合病院経営本部課長)
- 5 東海支部 ● 渡辺 徹氏 (日本赤十字社愛知県支部日赤愛知医療センター〔仮称〕設置準備室総務グループ長)
- 6 関西支部 ● 越智理仁氏 (神戸市立医療センター中央市民病院事務局経営企画課主任)
- 7 中国支部 ● 部坂佳生氏 (医療法人社団青藍会・社会福祉法人青藍会在宅医療支援部長、人事部長、事業開発部長)
- 8 九州支部 ● 岡本健太氏 (社会医療法人敬愛会中頭病院法人本部兼用度課次長)



基調講演の間隆一郎氏(左)と相澤孝夫氏

今大会では、全国8つの地域支部から推薦された医療経営士による「全国医療経営士地域支部代表者講演」が行われた(表2)。

関東支部の園村恭子氏は、新型コロナウイルスに対応した院内トリアージの仕組みづくりに向けた活動について報告。救急患者への対応などにおいてさまざまな苦労を経験したことも指摘し、「今後、病院単体ではなく、各病院で役割分担を行うことが地域医療維持の力ギとなる」と述べた。東海支部の渡辺徹氏は「医療経営士に今、求められるキャリアデザイン」について話し、「常に好奇心を持って物事に臨

**全国8支部の代表者が登壇
医療経営士の新たな役割を示す**

は、「新たな医療提供体制の構築とこれからの病床機能」と題して講演した。地域医療構想の実現に向けた機能分化と連携について触れ、「人口が減り、疾病構造が大きく変わるなかで、地域を守るために何をやるべきかを考えることが役割分担ではないか。私も経験したため、やめることは非常に難しいのはわか

み、得意分野を広げていく意識を持つことで、医療経営士としてキャリアを構築してほしい」と訴えた。

1日目の最後には、東京医科歯科大学大学院医療経済学分野教授の川淵孝一氏が座長を務めた特別座談会が行われた。登壇者は、朝日大学学長の大友克之氏、医療法人徳洲会宇治徳洲会病院院長の末吉敦氏、公益社団法人医療・病院管理研究協会理事の中村彰吾氏、アルフレッサ株式会社代表取締役社長の福神雄介氏。協会創立から10年を迎えた現状と課題、これからの医療経営士の役割などについて、議論を交わした。

次に、一般社団法人日本病院会会長の相澤孝夫氏は、「新たな医療構想の実現と展望」をテーマに新型コロナウイルスをテーマに新型コロナウイルスの発生状況と医療提供体制、地域医療構想の展望などを解説した。間氏は医療経営士への期待として、政策の大きな流れを把握するための研さんを続ける、新型コロナウイルスの克服に向けて補助金・支援金を積極的に活用するための情報提供を行うことなどを挙げた。

**大会2日目の演題発表には6人が挑戦
慶應義塾大学・宮田裕章氏が特別講演で登壇**

2日目は、医療経営士による演題発表が行われ、6人が登壇した(表3)。審査委員長の高垣昌弘氏(広島経済大学特別客員教授)らによる審査の結果、審査委員奨励賞に志塚泰喜氏、関東支部長賞に金城悠貴氏、インパクト賞に出雲貴文氏、ユニーク賞に高垣昌弘氏が選ばれた。審査委員奨励賞を受賞した志塚氏は、コロナ禍において経営への影響を最小限でとどめた南多摩病院の経営データおよび現場でのコロナ対策を分析・検証し、WITTHを中小民間病院のあり方について考察した。

閉会式では、来年開催予定の第10回大会で大会運営委員長を務める清水鴻一郎・関西支部支部長があいさつ。新型コロナウイルスの影響により来年の開催は状況を見ながら決定すると断ったうえで、「どんな形で実施するにせよ、できるだけ多くの人に参加してもらいたい」と述べた。



演題発表の表彰式では発表者全員に記念の盾、受賞者に表彰状が贈呈された。左から金城氏、高垣氏、柳澤氏、志塚氏、山口氏、出雲氏

新型コロナの感染拡大を受けて、WEB開催となった今大会は、2日間で延べ400人が視聴した。なお、12月発行予定の『理論と実践 第39号』では、今大会の模様を総力特集。あわせてご覧いただきたい。

表3 演題発表者一覧と受賞結果

賞	氏名	所属・役職	演題タイトル
関東支部長賞	金城悠貴氏	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 神奈川県済生会横浜市東部病院 事務部医事企画室室長	病床の最大活用を目指して ～今後増加する医療需要に応える～
ユニーク賞	高垣昌弘氏	事務長LABO代表	在宅診療所におけるSDGsの実践例
—	柳澤孝彰氏	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 神奈川県済生会横浜市南部病院 事務部経営企画係担当係長主任	職員健康診断の内製化による委託費削減 ～入るを量りて出るを為す～
審査委員奨励賞	志塚泰喜氏	医療法人社団永生会理事長企画室主任	中小民間病院におけるコロナ対応の考察
—	山口純和氏	医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院 情報システム管理室係長	PCR陰性患者への検査結果メール送信による 医師業務負担軽減
インパクト賞	出雲貴文氏	医療法人沖縄徳洲会 千葉西総合病院薬剤科科長	伝染性感染症病棟での COVID19対応報告と医療経営士の役割



上段左から川淵孝一氏、大友克之氏、末吉敦氏、中村彰吾氏。下段左から福神雄介氏、高垣昌弘氏、清水鴻一郎氏

創立10周年記念 第9回「全国医療経営士実践研究大会」東京大会 吉原健二代表理事 主催者挨拶(全文)



地域に目を向け、医療のあり方を 考えることが、医療経営士の新たな役割

本日、一般社団法人日本医療経営実践協会 創立10周年記念 第9回「全国医療経営士実践研究大会」東京大会を、ここ東京・六本木にて開催できましたことを、たいへんうれしく存じます。オンラインで全国各地からご参加いただいている皆さまに、厚く御礼申し上げます。

また、開催にあたりましては、厚生労働省、東京都をはじめ、多くの団体からご後援をいただくとともに、企業からのご協賛もいただきました。この場をお借りして、改めて御礼申し上げます。

本大会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、無観客で開催することとなりました。ご来場を予定されておりました皆さまには、多大なるご迷惑とご不便をおかけしてしまいましたことを、深くお詫び申し上げます。

一般社団法人日本医療経営実践協会は、医療機関を運営していく上で必要な医療および経営に関する知識と、課題解決能力、実践的経営能力を備えた専門家として「医療経営士」の育成・養成を目的に創立され、2020年7月に10周年を迎えました。本大会は、これを記念する大会として位置付けております。

2010年9月に実施した第1回「医療経営士3級」資格認定試験で、初めての合格者390人が誕生しました。それから10年が経過した現在、医療経営士3級1万742人、医療経営士2級1,535人、医療経営士1級86人となり、全等級を合わせた医療経営士の会員数は1万2,363人にのぼり、各方面でご活躍中であります。これは当協会及び支部の役員の方々のご尽力と、厚生労働省をはじめ多くの関係団体、企業、先生方のご指導、ご支援の賜と厚く御礼を申し上げます。

しかし、全国に約8,000ある病院、約10万ある診療所等で働く医療経営士の方は、いまだ1,800人程度と会員全体の2割にも達していません。医療経営士がその能力を活かして経営を支えていくには、1病院2～3人の配置が必要でしょう。そのため、さしあたって会員数2万人を目標に、医療機関に所属する医療経営士の増加を目指していくとともに、その能力・知識の向上に努めてまいり所存でありますので、今後ともよろしく御礼申し上げます。

今回の新型コロナウイルスの感染拡大は、

日本はもとより世界中に大きな衝撃を与えましたが、昭和の時代を中心に長い間、厚生省で医療に関わる仕事をしてきた私個人にとりましても、衝撃的な経験でありました。わが国でも明治から大正、そして昭和の20年代までは、病気といえば赤痢、チフス、コレラ、結核などの伝染病、感染症が中心で、戦前、死亡者が最も多く、死亡率の最も高い病気が「結核」でありました。それが、昭和26年に死亡率の最も高い病気が「脳卒中」に変わり、昭和50年代に「がん」に変わっていったのであります。

つまり、私が厚生省に入りました昭和30年頃に感染症の時代は終わり、がんなどの成人病、生活習慣病の時代になり、今回のような感染症の大流行などは、もう起きないだろうという認識でありました。

したがって、経済活動などが全部ストップし、国民はできる限り自宅にるように言われ、昼間から街に人っ子一人いないという風景、いわば戦時中にB29が飛んできて空襲警報が発令されたような風景、事態が全国で1か月も2か月も続くようなことが起きるとは、夢にも想像しなかつたのであります。

まだ完全に終息したわけではありませんが、新型コロナの流行は、まず第一にこのような感染症の流行が、50年に1度か100年に1度かわかりませんが、今後とも起きる可能性が十分あり、それに対する備えを怠ってはならないという教訓を与えてくれました。今回、患者のベッド数が足りず、ホテルのベッドを借りて間に合わせるという、想像もしない医療崩壊寸前の事態にまでなりました。今後は、このようなことがあってはなりません。

今回の事態が教えてくれたもう一つの教訓は、「医療」という仕事为国にとって如何に大切な仕事であるか、国民にとってどんなに感謝してもしきれないくらいの有難い仕事であるかを教えてくれたということであり、わが国の医療費はすでに40兆円を超え、それを少しでも抑え、抑制していくかが国の大きな政策課題になっていますが、国民の生命を守り、健康の維持に必要な医療費まで抑制してはなりません。医療従事者に対する報酬も、感染のリスクのあるなかで必死に治療にあたってこられた方々の努力に正當に報いるものでなければなりません。

新型コロナの流行は、密を避け「新しい日

常」を求めなかで、国民の生活、働き方にも、今後、大きな変化をもたらすことが予想されています。今回の流行を機に始まったオンラインによる在宅や地方での仕事や学習、医療は、「新しい日常」を求め、社会のデジタル化が進むなかでさらに広がり、人口の流れも、これまでの都市への集中から地方への分散へと変わっていくのではないのでしょうか。

それは今、国が重要な政策課題の一つとしている、さびれつつある地方の創生、地方の活性化にもつながり、本年7月に閣議決定された地方創生の基本方針においても、デジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進と、「感染症の克服と危機に強い地域経済の構築」ということが謳われています。そうなりますと、医療経営士にも、これまでのように医療機関のなかで医療のあり方を考えるだけでなく、地方、地域にも目を向けた医療のあり方、医療提供体制のあり方を考えるという新しい役割が期待されると考えねばなりません。

さて、以上に述べましたような現状と問題意識を踏まえ、今年の本大会のテーマは「医療経営士の時代 新たな経営改革と地域社会貢献への挑戦——コロナ後に問われる“突破力”と“創造力”」とさせていただきます。

非常にきつい日程になっておりますが、2日間にわたる本大会が有意義で実り多いものとなり、その成果が今後10年、20年、医療経営士の方々のご活躍の指針となりますよう、また、医療経営士の方々、直接、患者の方々の治療にあたるわけではありませんが、「経営」という面から医療に携わり、今こそ自分たちの「出番」がきたという認識を持ち、さらなる誇りと使命感を持ってご活躍いただきたいと思うのであります。

最後になりましたが、各プログラムにご登壇いただく先生や医療経営士の皆さまには、本大会の趣旨にご賛同いただき、快くお引き受けくださいましたことに厚く御礼申し上げます。また、このようなたいへんな時期に、大会運営委員長として開催にご尽力いただきました関東支部支部長の安藤高夫先生に、厚く御礼申し上げます。

本大会の開催が、医療界の発展に大きく寄与できますことを祈念いたしまして、開会のご挨拶とさせていただきます。

(2020年10月3日 収録)

事務局掲示板

第8回「医療経営士1級」
資格認定試験
第一次試験の合格者を発表!

9月6日(日)に実施された第8回「医療経営士1級」資格認定試験・第一次試験(筆記試験)の合格者が発表され、受験者49人中18人が合格しました。合格者は12月6日(日)実施の第二次試験(面接試験)に臨みます。

また、10月18日(日)実施の第20回「医療経営士2級」資格認定試験は297人(両分野受験)、第31回「医療経営士3級」資格認定試験は1,896人が受験。両試験の合格者は11月18日(水)に発表されます。

PICK UP 研究会

11/22~ 関西支部

関西支部合同研究会 坪ゼミ(全3回)

『アフターコロナ・ウィズコロナ』時代に求められる
～『カイゼン』流の組織改革～

関西支部では、介護福祉経営士、栄養経営士との合同研究会「坪ゼミ」を全3回で開催する。講師は社会医療法人愛仁会本部統括部長の坪茂典氏。参加は会場またはリモートのどちらかを選択できる。

新型コロナの影響により、医療・介護の現場ではこれまで以上にさまざまな課題を抱えている。アフター&ウィズコロナ時代に必要な科学的な問題解決法を講義と演習で学ぶ。

■日時

11月22日(日)、12月20日(日)、1月30日(土)
各回14:00~17:00

■会場 ※リモート参加も可

本町第2ビル2階セミナールーム(大阪府大阪市)

■参加費(税込)

会員:全3回7,500円/各回3,000円
一般:全3回10,000円/各回4,000円

■お問い合わせ先

日本医療経営実践協会関西支部
TEL:06-7660-1761(担当:喜津木)

支部NEWS

関東支部/
関西支部

自主研究会コラボシンポジウム

関西と関東の自主研究会が初コラボ
4人の医療経営士がコロナ禍の実践活動を報告

医療経営士が主体となって運営・活動する自主研究会が全国各地で活況を呈しているなか、2つの自主研究会によるコラボ企画が実現した。

9月18日(金)にZoomを使用して行われた「第24回関西医療経営勉強会&第28回神奈川研究会~自主研究会コラボシンポジウム~コロナ禍における医療経営士のTo Do」では、株式会社メディリリーフ代表取締役の荒井ゆき氏と社会医療法人甲友会西宮協立脳神経外科病院安全管理室課長の前田哲氏がモデレーターを務め、病院や医療関連企業に所属する4人の医療経営士が、コロナ禍における実践活動を報告した(表)。

最初に船山氏が、「資金繰り改善策としてのリース活用」をテーマに講演。資金繰

り悪化の要因を挙げ、考えられる改善策を解説したあと、「コスト削減やリースによる資金調達を通じて、手元資金や銀行融資枠の温存を図れば、医療経営士として病院経営に貢献できる」と強調した。

続いて、洪氏がコロナ禍の連携や患者対応において課題が生じたケースなどを紹介。「未曾有の事態においては、専門分野が異なる医療経営士たちが相互に情報共有を行うとともに、専門性を発揮してリアルタイムで協力し合える仲間を増やしていくことが必要」と呼びかけた。

その他、福井氏は、介護用品などを製造・販売する自社のコロナ対応を時系列で振り返り、「現場のために何ができるかを考えていくことが必要だと痛感した」と話し、柳澤氏は院内で発生したクラス

ターの原因と対応、そこから得た学びについて解説した。

コロナ禍において研究会の開催方法は変わりつつあるが、こうした意欲的な試みが今後も増えていくことを期待したい。

表 発表者と発表テーマ

- ▶「資金繰り改善策としてのリース活用」
船山和紀氏(株式会社日医リース営業統括部
新規開業支援室課長)
- ▶「共和病院におけるコロナ禍の対応と
近隣医療機関の近況について」
洪東基氏(医療法人同友会共和病院医療福祉課)
- ▶「社員を不安にさせない民間企業の取り組み」
福井泰志氏(株式会社リブドゥコーポレーション
経営企画課課長)
- ▶「院内感染からの学びを活かす」
柳澤孝彰氏(済生会横浜市南部病院経営企画係主任)



医療白書2020年度版

『医療白書』最新版、好評発売中!

ポストコロナ時代の医療再構築 国難から見た次世代社会への展望

第1部 【特別座談会】パンデミックが変えた世界 次世代医療と日本再生のあり方を考える

司会: 寺崎 仁(一般社団法人日本医療・病院管理学会理事長)
出席者: 猪口雄二(公益社団法人全日本病院協会会長) 岩田健太郎(神戸大学医学研究科感染治療学分野教授)
西田亮介(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院准教授)

第2部 新型コロナ危機から見た日本の社会・医療体制における課題と展望

第3部 感染再拡大・新たな脅威に備えよ! 医療崩壊を食い止めるための打開策

第4部 ポストコロナ時代の日本はどうあるべきか 医療再構築・社会変革に向けた提言

第5部 【資料編】データと年表から読み解く新型コロナウイルス感染症

各界有識者が緊急提言!
国難突破に向けた
医療再構築・社会変革の
道筋を示す



■監修: 寺崎 仁(一般社団法人日本医療・病院管理学会理事長) ■定価: 4,950円(税込) ⇒ 会員価格: 3,960円(税込)
■企画・制作: ヘルスクエア総合政策研究所 ■体裁: B5判、並製、192ページ

【お問い合わせ先】株式会社日本医療企画 ☎03-3553-2861 <http://www.jmp.co.jp>